

森・鳥・伝統文化を未来へつなぐ

竜美丘学区

TATSUMIGAOKA



私たちのふるさと！竜美丘！！



竜美丘小学校40周年を記念し、校庭に全校児童が集まり、人文字で校章を作りました(2016/4/18撮影)



編集後記

1976年(昭和51)の竜美丘小学校開校をきっかけに、竜美丘学区の各町内会が手を取り合って、「竜美丘」のまちづくりを進めてきました。学区の大部分が、土地区画整理事業によって里山を切り開いた土地です。そのため、学区に居をかまえた人の郷里は全国に広がっています。この40年間、先人たちは、大人から竜美丘小学校に通う児童や卒業生まで、ここ「竜美丘」が「私たちのふるさと！」とすることができるまちづくりに励んできました。

私たち平成27・28年度総代会のメンバーを中心にした作成委員会は、そうした先人の理念と、それを引き継いで現在のまちづくりに励む思いをこの紙面に表現しました。

作成にあたり、資料の提供やご意見をいただいた方々に厚く感謝申し上げます。

〔作成委員会〕 清水治夫 / 鈴木久利 / 岡村健二 / 神谷衛 / 藤井和平 / 田中俊雄 / 小島信行 / 小島彰仁 / 吉田和彦 / 宇野博士 / 山本吉夫 / 山田昌生 / 鈴木明

〔参考資料〕 岡崎市竜美ヶ丘土地区画整理事業完了記念誌 / 竜美丘小学校開校10周年記念誌・20周年記念誌・30周年記念誌
〔表紙写真〕 竜美丘小学校相撲学習会(平成27年7月撮影・市政だより「おかざき」平成27年8月1日号表紙より)



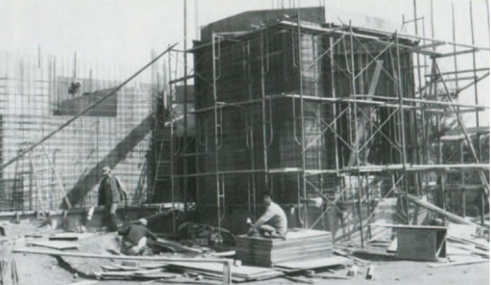
1 開発前の里山の様子（高根山から北西を望む）



2 開発中の様子（右上は大西配水場）



3 竜美丘小学校開校（開校式は8月30日に実施）



4 竜美ヶ丘公園（野鳥の森）展望台の建設



5 名鉄バス路線開通（竜美丘・日名町線）



6 大西配水場拡張工事完了

竜美丘のなりたち

一九六五年 ■ 昭和40

岡崎市竜美ヶ丘土地区画整理組合設立…1・2

一九七六年 ■ 昭和51

竜美丘小学校開校…3

一九七九年 ■ 昭和54

竜美ヶ丘公園展望台完成…4

一九八〇年 ■ 昭和55

名鉄バス路線開通（竜美丘・日名町線）…5

一九八一年 ■ 昭和56

岡崎竜美丘派出所開設

一九八五年 ■ 昭和60

竜美丘学区市民ホーム完成

一九八八年 ■ 昭和63

岡崎市竜美ヶ丘土地区画整理事業完了

一九八九年 ■ 平成1

竜美丘学区こどもの家完成

二〇一一年 ■ 平成23

大西配水場拡張工事完了…6

二〇一六年 ■ 平成28

竜美丘小学校開校40周年記念式典挙行

空から学区の変化を見てみよう



土地区画整理前の学区のようす（1957年/昭和32）

現在の学区のようす（2016年/平成28）



土地区画整理始まる

この地域は、乙川の低地に接する洪積層の台地であり、古くより人々が住み、それを語る遺跡などが残っています。鎌倉街道が地域内を通っていましたが、東海道が対岸に移ることによって大半の台地は古来のままの原生林で、兎や狸などの生息地でした。大正15年に愛知電気鉄道（現名古屋鉄道）の東岡崎駅以東が開通したことにより、若干の開発が進められてきました。特に昭和30年代からの高度経済成長期に緑地指定や運動公園設置等の問題が起こり、更に急激な社会変化及び生活様式の変容により住宅建設の必要が高まり、この地（明大寺・大西）が注目されるに至りました。

こうした情勢に対応するため、関係機関の指導と、600余名の地主の賛同を得て土地区画整理組合が設立され、地域社会の要請に応えることになりました。

もとよりこの地域は、風光明媚な丘陵地で乙川の清流に近く水利もよく、花崗岩地盤のため地震にも強いという理想的な環境条件を満たしていたので、この住宅地開発が進められました。

認可より完工までの24年間には、資金計画、風水害や岩盤の露出等とその対策、また経済変動等による幾多の障害や困難もありました。しかし、幸い関係機関の適切な指導と組合員の協力により、この大事業を完成するに至りました。

「竜美丘」の名称の由来

昭和40年、土地区画整理組合の設立に際し、その施工地区が岡崎城の別名「竜城」の辰巳（南東）の方向にあたる丘陵地帯であるところから、岡崎市竜美ヶ丘土地区画整理組合と命名されました。

DATA



□人	14,683人
□男性	7,292人
□女性	7,391人
□世帯数	5,987世帯
□面積	2.00km ²
[2016年7月1日現在]	

竜美丘学区

まちなものがたりマップ

竜美丘学区ができて40年が経過しました。東に岡崎環状線、西に国道248号という主要道が通り、また、JR岡崎駅と名鉄東岡崎駅の中間点に位置する学区です。大型商業施設や岡崎郵便局などが周辺に隣接するため、住みよい街として急速に発展してきました。



A 竜美ヶ丘公園
入口に土地区画整理事業完了記念碑が建立されている



A 竜美ヶ丘公園 展望台
公園の頂上にある展望台。標高は76.7mで、市内の街並みが一望できる



B 乙川の川べりにやってきたアオサギ
学区の北西を流れる乙川は、野鳥観察や魚釣りが楽しめる



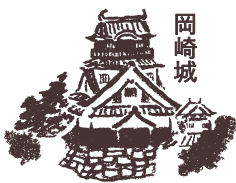
C 白鳥神社
日本武尊東征の際に駐泊したとされる旧跡に建立された、近郷第一の古い神社。祭神は日本武尊・大物主命・猿田彦命



D 棚田公園
大きな溜池を埋め立てて作られた公園。幾種類かの広葉樹が植えられており、秋には紅葉が楽しめる

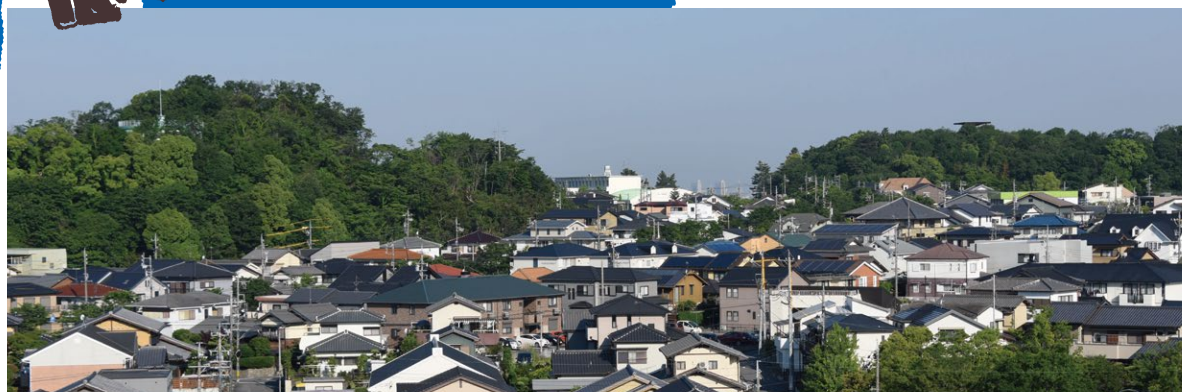


E ケヤキ並木
竜美丘小学校東の3方向の道路には、ケヤキが両側に植えられている。秋には紅葉が美しい



岡崎城

Fから望む竜美丘学区



F 竜美新町のマンション最上階から見た、大西配水場(高根山)(左)・竜美丘小学校(中)・竜美ヶ丘公園展望台(右)



G 竜美丘小学校
開校40周年記念の航空写真。周りに植えられた樹木も大きく成長した



H 大西配水場
樹木の成長によって、見える場所は限られるようになった



I 奈良井公園
学区内最大の公園。夏には小川が流れ、学区内外から訪れた多くの人が憩う



竜美丘じゅんかんバス
竜美丘・日名町線として開通したバスは、東岡崎南口を発着する循環バスとなり、学区住民の重要な交通手段となっています。



J ポプラ通り
土地区画整理事業が完了した当時は、ポプラが両側に植えられていたが、成長すると台風で倒れるようになり、学区住民のアンケート結果を基に、ハナミズキが植えられている。現在でも「ポプラ通り」とよんでいる

竜美丘学区

森・鳥・伝統文化を

未来へつなぐ取り組み

この地域に生息する野鳥や、伝統文化、そして住民の絆といった「学区のたからもの」を、未来へ継承していく取り組みを紹介します。

愛鳥集会

毎年、愛鳥週間の期間に、竜美丘小学校の高学年児童が鳥のクイズを出して、野鳥について学ぶ「愛鳥集会」を実施しています。この他にも、小学校の北側に隣接する野鳥の森を活用した自然観察学習が毎年行われています。



野鳥の森で行われる
愛鳥集会のようす



モズ
(野鳥の森)

ダイサギ
(乙川)

メジロ
(竜美丘小学校)

ハクセキレイ
(乙川)



大人
つなひき



大人
玉入れ

子ども
玉入れ

学区体育祭

学区住民の「ふれあい」の場として、毎年、9月第4日曜日に町別対抗の学区体育祭を、小学校の運動会とは別に独立して行っています。

相撲学習会

昭和57年に「本物を作り出すには本物でありたい」という思いで、竜美丘小学校の校庭に、日本古来の建築美を有する本格的な相撲場が、PTAと学区の篤志家の好意で作られました。以来、竜美丘小学校では毎年、大相撲名古屋場所が開催される時期に、力士を招いて、全学年が参加する相撲学習会が行われています。



こども相撲大会

毎年、白鳥神社の秋の大祭で、奉納相撲大会が行われています。長老の話では、戦後、青年団活動の相撲大会を真似て子ども会でも相撲大会が始まり、昭和30年代半ばまで続いたようです。その後一度途絶えましたが、竜美丘小学校の開校5年前の昭和46年に復活しました。特徴は、女の子も相撲をとることです。



夏まつり

毎年、8月の月上旬に、地域住民の「ふれあい」の場として、町内ごとに夏まつりが開催され、地域住民の「絆」を深めています。写真は、平成27年8月に奈良井公園で行われた竜美丘一区と二区共催の夏まつりです。

